



こもれびの森の樹木

こもれびの森博物誌の樹木は今まで高木を取り上げてきましたが、低木についても樹名板を付けています。

樹名板を取り付けた低木はウグイスカグラ、ムラサキシキブとガマズミです。

ウグイスカグラはスイカズラ科スイカズラ属で樹高は1~3mの落葉低木、根元から枝分かれして広がります。名前の由来はウグイスが木の茂みに入り、神楽舞いのようにはね廻る姿から等諸説があります。花期は4~5月に葉の脇から淡紅色の花が1~2個垂れ下がって咲きます。果実は6月に赤く熟し甘くなり食べられます。ウグイスカグラは別名ウグイスノキともいい、同属にスイカズラがあります。



ウグイスカグラの実

ムラサキシキブはクマツヅラ科ムラサキシキブ属で樹高2~3mの落葉低木です。名の由来は実の美しさから紫式部を連想したものです。

同じクマツヅラ科にはヤブムラサキ、コムラサキ、ハマゴウ、クサギがあります。ムラサキシキブは実がもてはやされていますが、淡い紫色の花も森の中で楽しませてくれます、開花は6~7月で、葉腋から淡紫紅色に花を多数つけます、葉のつき方は対生です、果実は10~11月に紫色に熟し落葉後も残り観賞価値があります。



ムラサキシキブの花

ガマズミはスイカズラ科ガマズミ属で樹高は2~4m程になり、北海道から九州に分布し、雑木林にふつうに見られます。花期は5~6月で小さな白い花を多数つけます。実は9~10月に赤く熟し見た目にきれいなだけでなく、食べるとおいしく、ことに霜に当たると甘みが増します。ガマズミの同属はコバノガマズミ、ミヤマガマズミやサンゴジュ、カンボク、ヤブデマリ、ムシカリ等があります。森の活動地の特に植生調査地区では間伐をした後の陽のあたるようになった地区内の草花等の観察を行っています。



カントリーヘッジの一部

植生調査地区の散策路の周辺に林内の低木を移植して、カントリーヘッジ（低木による柵）を作り、地区内の保護のため立ち入りを出来ないようにしています。

移植した低木は上記のウグイスカグラ、ガマズミ、ムラサキシキブのほか、マユミ（ニシキギ科ニシキギ属）、ニシキギ（ニシキギ科ニシキギ属）、コゴメウツギ（バラ科コゴメウツギ属）が主なもので、その他ゴンズイ（ミツバウツギ科ゴンズイ）、イボタノキ（モクセイ科イボタノキ属）、ミツバツツジ（ツツジ科ツツジ属）等があります。【林】

鳥の姿は目立たないけれど

夏、野鳥たちは早起き、日の出とともに活動開始。一番はカラス、次はメジロ・ヒヨドリと鳴きだします。でも、日中は森を歩いても鳥に出会うことは少なくなります。

森の木々の緑もうっそうと茂る季節、巣立ちしたヒナたちは？子育て一段落の親鳥たちは？

もう、さえずりはあまり聞かれませんが、親子それぞれが自立をして懸命に生きている姿を垣間見られるかもしれません。これまでの観察記録から、このころの様子を少し紹介します。

7月 ・雨上がり、水たまりでアオゲラ・シジュウカラが順に水浴びを
・ヒヨドリが巣材運び。クヌギに張り付いたツタのひげ根をむしりとり、灌木の茂る中へ一直線。どこにいたのかペアらしい一羽がその後を追う。



アオゲラ♀（♂は頭部の赤い羽毛部が広く額まで繋がる）

8月 ・シジュウカラ、換羽の時期らしく尾羽がそろわず高い梢の上でひっそり。
・ミズキの実が色づき始め、早々ヒヨドリやムクドリが集う。
・イヌシデ広場周辺、メジロの群れが賑やか、コゲラは朽木をコンコン、シジュウカラの若鳥は一人前に葉裏にぶら下がり虫取りを。ヤマガラの若鳥も一緒です。近くにはセンダイムシクイもいて、渡りの季節の一番手のようです。【瀬尾】

デンデン ムシムシ カタツムリ

デンデン ムシムシ カタツムリ お前の頭はどこにある角だせ槍だせ 頭出せ
森の中でカタツムリを見るとこの歌をくちずさんでいます。

私たちにとって親しみのある生き物なのに知らない事がいっぱいあります。

○ カタツムリは何の仲間か？

巻いた貝殻を背負っているので貝の仲間ですね。貝類はもともとは、海に住んでいました。進化の過程で水から上がって陸で生活するようになり、空気中の酸素をとる為に鰓がいつの間になくなって、肺に変化してしまいました。水のある所から進化してきたために、やはり、湿った所が生活の場になりました。

○ 食べ物

コケ・木の葉など植物質のものなら、ほとんどなんでも好んで食べます。

種類によっては、動物質のものを、好んだり他のカタツムリを食べる肉食性のももいます。

さらに、貝殻を作っていくのに大切なカルシウムを含んだものなども削りとして食べます。

○ メスとオスの区別は？

雨の多い5月～7月は、カタツムリにとって恋の季節です。一匹のカタツムリの中には、メス

とオスの両方の働きをする器官（生殖器）があります。同じ体の中にメスとオスの器官があるものを「雌雄同体」と言います。【高橋】



*お詫び：高橋さんの原稿は編集の都合上、一部をカットさせていただきました。

